

## 審査・表彰

- ① **評価のポイント** 「創」・「効」・「種」の3拍子揃った取組の観点に加え、プレゼンテーションの内容を評価します。

創(そう)	創意工夫あふれる取組か、独創性・先進性があるか
効(こう)	費用対効果の高い取組か
種(しゅ)	他にアイデアの種を提供する取組か(他の自治体に広がる取組か)
プレゼンテーション	取組の意図や内容がよく伝わるプレゼンであったか

- ② **表彰**
- ・グランプリ1団体を表彰します。(副賞：砥部焼の表彰楯)
  - ・その他の発表団体は、すべて優秀賞として表彰します。

## 「チーム愛媛」による優良事例の共有・活用

今回大会には、愛媛県の全20市町長に出席いただいています。

各市町長には、8団体のそれぞれのプレゼンテーションの終了後、事例ごとに「自団体でも取り入れたい」「興味がある」「アイデアや取組姿勢に共感する」場合には、市町名の入った札を挙げていただきます。

各市町長に「横展開の可能性」について判定いただくことにより、「チーム愛媛」で優良事例の共有を図ることとしております。 ※当該判定結果は、「グランプリ」の決定に直接反映されません。

## 応募状況

「行革甲子園2020」開催にあたり、全国の市区町村から取組事例を募集したところ、30都道府県の60市区町村から、73もの創意工夫あふれる取組事例の応募をいただきました。誠にありがとうございました。

(73事例のうち、審査対象60事例、審査を希望しないもの13事例)

## 応募事例の公表・共有

「行革甲子園2020」の開催後、すべての応募事例を愛媛県ホームページに掲載します。また、大会概要等を掲載した事例集を作成するなど、事例の共有に努めます。

## これまでの「行革甲子園」について

愛媛県では、県内市町と連携して、平成24年度～30年度にかけ、2年に1度、平成24、26年度は県内版として、平成28年度からは対象を全国に広げた全国版として合計4回の「行革甲子園」を開催してきました。これらにおける発表事例等を参考に、類似の取組が他の自治体で多数取り入れられるなど、優良事例の波及効果を確認しています。

これまでの応募事例や受賞事例は、愛媛県ホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

詳しくは、

# 行革甲子園



～集え全国のイノベーション!! 行革オールスターin愛媛～

日時 **令和2年**  
**11月13日(金)** 12:30～17:00  
(開場12:00)

場所 **松山市民会館「中ホール」**  
愛媛県松山市堀之内



投票QRコードに  
アクセスしていただき、  
良かった発表団体に、  
ご投票ください。



参加者オンライン投票は  
こちらから

## 「行革甲子園2020」開催にあたって

全国版として3回目の開催となる「行革甲子園2020」には、新型コロナウイルス対応で多忙な中にもかかわらず、30都道府県の60市区町村から、創意工夫あふれる73もの行政改革事例が寄せられました。

御応募いただきました皆様方に深く感謝を申し上げます。

今回は、感染防止対策の徹底を図った上で、書類審査で選考された8団体によるプレゼンテーションが行われるほか、リモート出演で韓国・ソウル市の先進事例が発表されることとなり、本大会を通じて国内外の優良事例のノウハウが広く共有され、各自治体における行革推進とよりよい地域づくりにつながりますようお願いしています。

なお、後日、すべての応募事例を愛媛県ホームページに掲載するとともに、大会概要等を掲載した事例集を作成いたしますので、今後の政策立案にお役立ていただければ幸いです。



愛媛県知事 中村 時広

主催／愛媛県

後援／全国知事会・愛媛新聞社・朝日新聞松山総局・毎日新聞松山支局・読売新聞松山支局・日本経済新聞社松山支局・産経新聞社・NHK松山拠点放送局・南海放送・テレビ愛媛・あいテレビ・愛媛朝日テレビ・FM愛媛・愛媛CATV

応援企業／ホープ

新型コロナ対策 詳しくは中面をご確認ください。

## 次第・タイムスケジュール

**1 事例発表** 12:30～ 発表時間12分／1団体

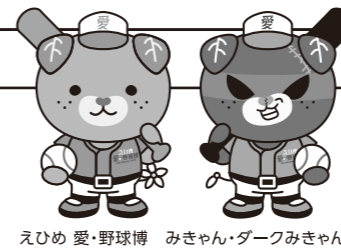
## 8団体によるプレゼンテーション

市町村名	発表者	取組事例名	発表に向けての意気込みなど
犬山市(愛知県)	企画広報課 主査 村瀬 曜	～シェアエコで 三方よし～ シェアリングエコノミーを活用した行政課題解決 “観光駐車場不足解消大作戦”	行政課題を解決するためには、百点満点の成果が得られなくても新たな仕組みづくりにチャレンジすることが大切です。この「観光駐車場不足解消大作戦」が、新たな公費を投じることなく課題解決を目指す自治体運営へのヒントになれば幸いです。
所沢市(埼玉県)	経営課 主幹 田島 幸雄	下水道マンホール蓋を活用した有料広告事業の取組	本日は、行革甲子園での発表の機会をいただきまして、心から感謝しております。所沢市上下水道局における全国初の取組「下水道マンホール蓋有料広告事業」について、発表させていただきます。本局では、所有する企業用資産を有効活用することで、新たな自主財源の確保に努め、事業を活性化し、健全経営に向けて取り組んでいます。局職員は、日頃から多彩なアイデアをもとに、実現可能な事業を調査研究、一経営者としての意識を持って、「チャレンジ精神」を胸に、業務改善に努めています。平成29年度から開始した本事業は、民間事業者等の宣伝用の広告媒体として活用し、収益の向上を図り、下水道事業の経営基盤の強化を目指すものです。本日の発表により、他事業者における施策事業の参考となれば幸いです。ご清聴の程、よろしくお願いたします。
明石市(兵庫県)	財務室 財務担当課長 松永 聡平	全ての自治体におススメできる日常修繕を含む施設包括管理	「全ての自治体におススメ」ってまた大変な、と思うかもしれませんが本当に全ての自治体におススメです！政令市や他の中核市でも公募に向けて準備を進めている自治体もあると聞いており、もうすぐ施設包括管理のビッグウェーブが来ると期待しています。今、乗っかって損はないですよ！
西条市(愛媛県)	地域振興課 副主査 安永 佐和子	西条市版SIB(ソーシャル・インパクト・ボンド)の実施	様々な人とのつながりのおかげで実施できている「西条市SIB」の取組を、より多くの方に知っていただける機会ができたことを、大変嬉しく思っています。精一杯頑張ります。
休 憩 (14時頃)			
長井市(山形県)	総務参事 竹田 利弘	国登録有形文化財「旧長井小学校第一校舎」の有効活用	旧長井小学校第一校舎は解体の危機にありましたが、たくさんの人の思いにより保存することができました。廃校の利活用に悩む全国の自治体の参考になればと思います。 また旧長井小学校第一校舎は、私も通った思い出の校舎でもあります。生まれ変わった校舎は誰もが気軽に利用できる施設となっており、長井市の地域活性化のためにも、全国の皆様に来ていただけるよう、この場を借りてPRにも努めたいと思います。
品川区(東京都)	企画調整課 主査 市川 友章	官民連携による図書館と医療・介護の複合施設の建設・運営	初めて行革甲子園への参加の機会をいただき、大変光栄です。今回の事例は、品川区のたくさんの思いが詰まったプロジェクトになります。聞いていただく方に少しでも参考になればという思いで、精いっぱい発表させていただきます。
苅田町(福岡県)	上下水道課 水道公務担当係長 佐村 有人	地理情報システム(GIS)導入による業務効率化に関する苅田町の取組について ～職員自ら構築した水道管路マップを始めとした業務効率化の取り組み～	今年、新型コロナウイルス感染症の影響で暗いニュースばかりでしたが、全国から選ばれた皆さんと事例発表ができることを楽しみにしています。苅田町の取り組みが皆さんの業務効率化へのヒントとなるよう頑張りたいと思います。
久万高原町(愛媛県)	総務課情報政策推進室 室長 田村 裕子	全国初! 町内全域自営LPWA通信網の整備 ～携帯電話の圏外からでも正確な位置情報を伴った救助要請が可能に～	LPWA通信網を構築し、携帯電話のエリア外でも正確な位置情報を伴った救助要請が可能となる全国初の取組を進めています。この課題は全国の森林に共通しています。同様の課題を抱える皆様のご参考になれば発表いたします。
休 憩 (審査・集計)			

**2 特別企画** 15:50～ 発表時間40分

## 韓国・ソウル市による事例発表

所 属	発表者	取組事例名
ソウル市	情報通信 セキュリティ担当官 公共Wi-Fiチーム長 ド・チャング	市民の通信基本権保障及び未来スマート都市インフラ構築のためのS-Netと「カッチオン」サービス開始 ～スマートソウルのデジタル大転換のための新しい道が開かれます。～



えひめ 愛・野球博 みきゃん・ダークみきゃん

**3 表彰式** 16:40～ 審査結果発表、表彰式、講評 17:00 閉会

新型コロナウイルス  
感染予防対策にご協力をお願いします。

- 来場にあたってはマスク・フェイスガードの着用をお願いします。着用されていない方のご入場はできません。水分補給など、必要な場合以外は常時マスクの着用をお願いします。
- 入場口での検温にご協力をお願いします。検温にご協力いただけない方や検温の結果、37.5度以上の発熱がある方は入場をお断りさせていただきます。●入退場や休憩時など、来場者の皆様同士、人と人との十分な間隔確保にご協力をお願いします。
- 37.5度以上の発熱や風邪のような症状のほか、咳、呼吸困難、全身倦怠感、味覚・嗅覚障害など、新型コロナウイルス感染症を疑われる症状のある方、陽性とされた方との濃厚接触が疑われる方、海外から帰国後2週間未満の方は来場をお控えください。
- スマートフォンをお持ちの方は、来場時に「えひめコロナお知らせネット」への登録をお願いします。また、厚生労働省アプリ「COCOA」もあわせて登録をお願いします。●指定席ですので、開場時間前から入場口付近にお並びいただくことはご遠慮ください。
- 感染の発生に備え、来場者の氏名、連絡先等を確認させていただくとともに、必要に応じ保健所等の公的機関に情報を提供させていただく場合がございますので、予めご了承ください。

「審査員のご紹介」  
小西 砂千夫 (審査員長・関西学院大学 教授)  
兼平 裕子 (愛媛大学 教授)  
小室 将雄 (有限責任監査法人トーマツ パートナー)  
富澤 由佳 (READYFOR株式会社パートナー開発部地域事業責任者)  
根本 昌彦 (株式会社未来戦略研究所代表取締役)  
中村 時広 (愛媛県知事)

## 「行革甲子園2020」開催に寄せて



小西 砂千夫 氏  
(審査員長)  
関西学院大学 教授

行革甲子園の「行革」は減量型の予算圧縮ではなく行政のイノベーション。今どきの課題に対応して、自治体の行政運営がどこまで買われるかを競い合うものです。知恵と思いがあれば、住民に喜んでもらえて、自分の仕事が誇らしく思える成果はきっと出せるはず。今回もまた、驚きと関心と、そして苦勞の陰に見る人の営みの尊さを感じさせていただけます。大会なので覇を競うことになっていますが、汎用性があり、共有できる幅の広いものが1位になるのであって、1位でなくても取り組みの価値に差はありません。行革甲子園に出場していただければ、あなたの行革の取り組みを、全国の誰かが見ていて、それを評価し、共鳴し、志をどこまで受け継いでいってくれます。



兼平 裕子 氏  
愛媛大学 教授

コロナ一色となった2020年という忘れられない年に「行革甲子園2020」が開催されることを嬉しく思います。県内事例のみだった第1回、第2回、全国へと拡大されてからも第3回目となり、計5回目の行革甲子園ということになります。

ご縁があって、第1回から継続して審査をさせていただいてきました。だいぶ事例の審査に慣れてきましたが、今回は各事例を読むのが楽しかったです。このような工夫ができ、行政の効率性を高め、かつ、汎用性があるのだと感心させられた事例が多かったからです。

行政改革がすすみ、公務員の数が少なくなっていることもあって、どの自治体の行政マン(ウーマン)も仕事の手いっぱいだと思います。そのような中で、「創」「効」「種」を兼ね備えた8事例の発表を楽しんでいただき、それぞれの自治体に活かしていただきたいと思っております。



小室 将雄 氏  
有限責任監査法人  
トーマツ パートナー

コロナ禍において開催ができないのではないかと心配しておりましたが、ここに無事5回目の「行革甲子園」が開催できますこと、心よりお慶び申し上げます。そして今回、初めてとなるインターネットを利用した生配信により、これまで現地で当日の様子を見ることができなかった方々にも、リアルタイムで現地のアツイ発表をお届けできることは、評価のポイントである、「創(そう)」「効(こう)」「種(しゅ)」の「種」(他にアイデアの種を提供する取組)の観点から、とても素晴らしいことと思います。今後、さらに充実・発展した「行革甲子園」への期待が膨らむ今回の開催、とても楽しみにしています！



富澤 由佳 氏  
READYFOR株式会社  
パートナー開発部  
地域事業責任者

コロナ禍において、我々の生活は変化を強いられてきました。ただ見方を変えてみると、大きく変化するチャンスとも言えるでしょう。制限があるからこそ、工夫が生まれる。今、世の中には、変革を率いるリーダーが求められています。まちづくりにおいては、誰がどのように牽引していくのか。

市民一人ひとりのやりたいことを実現させることが、まちの魅力づくりに繋がる。ただ、まちづくりにも共通のゴールは必要です。まち全体としてどこを目指すのか。エッジの効いた旗を立てられるまちが、これからの時代は生き残っていく。

簡単にできることではないけれど、だからこそ面白い。「行革甲子園」を通して、日本中に光を差し込めるような、これからの時代を率いていく新たなアイデアと出会うことを楽しみにしています。



根本 昌彦 氏  
株式会社未来戦略研究所  
代表取締役

今回、初めて審査をさせて頂くことになりました。コロナ禍にて開催が可能なのだろうか心配しておりましたが、開催されることになり嬉しかったです。

現在、複数の自治体の顧問等(以前はCIO)として行政改革も担当しておりましたが、どうもスマートでは無い形で削減することのみを目的化することに、それは「改革」なのか、新しい価値が生まれるのかと言って、定義を変えたことがありました。

今回、応募された自治体のケースを拝読しますと、まさに、新しい価値を生み出す創意工夫がされておりました。行革とは、こうしたことごと一つ一つ納得しながら数回熟読させて頂きました。こうした行革甲子園という場を設定された愛媛県に改めて感謝申し上げたいと思います。